



児童の感想から

1月の「第6回傾聴作文」では、4～6年生は担任ではない先生の話（例えば4年1組で5年1組の担任が話す）、1～3年生は校長先生のお話を聴いて自分が感じたことを文章にまとめました。

第6回の校長先生のお話と子どもたちの感想をお知らせします。

☆☆☆ 「生きることのすばらしさ」 ☆☆☆

今日の傾聴作文は、1，2，3年生に、生きることのすばらしさについて、お話をします。

みなさんは、どんなときに「生きている」ことを感じますか？ 心臓がドキドキするときですか？ 朝、気持ちよく起きたときですか？ 楽しく勉強しているときですか？ 手が温かいと感じるときですか？ 食事をおいしく食べているときですか？ 楽しく運動しているときですか？ 友達と遊んでいるときですか？ みなさんも、ちょっと考えてみてください。どんなときに、「生きている」と感じるか。

どうですか、思いつきましたか？ それはどんなときですか？ 近くの友達に教えてあげてください。どうでしたか、自分と同じ人はいましたか？ けっこう違って、人によっていろいろなときに「生きている」と感じているようですよね。「生きている」と感じることは、みなさん一人一人が今生きている証拠でもあるのです。

校長先生は「生きている」ということをお話しましたが、「生きている」ということは、命があるということです。みなさんは、自分の命を大切にしていると思います。命を大切にするために、規則正しく生活して、交通事故とかに気を付けて安全に過ごしていることでしょうか。そして大事なことは、みなさんが「生きているすばらしさ」をしっかりと感じるることなのです。だから、心臓がドキドキするとか、気持ちよく起きたときとか、手が温かいとか、おいしく食べるとか、楽しく勉強や運動や遊びをするとか、みんな「生きることのすばらしさ」です。さらに日頃は意識していなくても、育ててくれている家族の気持ちを考えることも、お父さんやお母さんが自分のことをとても大事に思ってくれていることも「生きることのすばらしさ」なのです。

だから、自分の命を大切にするためにも、「生きることのすばらしさ」をたくさん見つけながら、生活していきましょう。

- ・僕が生きていると思う時は、遊んでいる時です。これからも、交通安全に気をつけて、色々なことを頑張りたいです。校長先生のお話を聴いて、とても命の大切さが分かりました。いつも命のすばらしさを見つけられたらいいと思います。（1年生）
- ・命は自分が生きている証拠。命を守るには、精一杯の力を出して皆が力を合わせたらいいと思います。皆が助け合えば、一人一人の命が助かります。命は大切なものです。（1年生）
- ・私は校長先生のお話を聴いて、地域の方やお母さん、お父さん、おじいちゃんに支えられた時が「生きているんだな。」と思います。理由は、いつも下校の時に安全を見守ってくれたり、大事に育ててくれたりしているからです。私が大人になったら、おばあちゃん、おじいちゃんを助けてあげたいです。（2年生）
- ・私は、自分が生きていると思う時はドキドキしている時です。どうしてかと言うと、お母さんが「動いていることは、生きているということだよ。」と言っていたからです。私はこれから、ルールやきまりを守り自分だけではなく、友達や家族も守りながら生活していきたいです。（2年生）
- ・私は、生きることが大切だと思いました。私がドキドキしている時は、友達と遊んでいる時です。人は、心を持っています。皆と生きるのが好きです。私はこれから皆と生きて、規則正しい生活をしていきたいです。（2年生）
- ・私は校長先生のお話を聴いて、生きていることはすばらしいと思いました。私が生きていると感じるときは、ご飯を食べている時です。なぜならお母さんに産んでもらえなかったら、おいしいご飯が食べられないからです。そして魚や肉も生きているので、その生き物の命をもらっているからです。これからも学校の目標でもある「自分の命は自分で守る」を大切にしていきたいです。（2年生）
- ・今日のお話は、生きることのすばらしさのお話でした。僕は、生きることのすばらしさについてこう思います。生きているということは命があるということです。人間は皆生きることに欠かさない、命があります。命があるということは、生きているということになります。僕はもしサッカー選手という夢が叶ったら、戦争で大変な生活をしている人に布団等の贈り物をしたいです。なぜかと言うと、皆遠いところで離れているけれど、生きている同じ仲間だからです。僕は生きていることのすばらしさについてとても分かりました。これからも生きる（命）を大切にしたいです。（3年生）
- ・私はこのお話を聴いて、題名の通り「生きることはすばらしいな。」と思いました。私は、ご飯を食べている時や楽しく遊んでいる時に、生きているんだと感じます。それをお母さん、お父さんが教えてくれていることが分かりました。今度わたしがお母さんになったら、子供に「生きることはすばらしい」と教えてあげたいなと思います。そのためにも、おじいちゃんやおばあちゃんに、たくさんのことを教えてもらいたいです。これからも頑張ります。（3年生）



4年生の道徳科の学習から

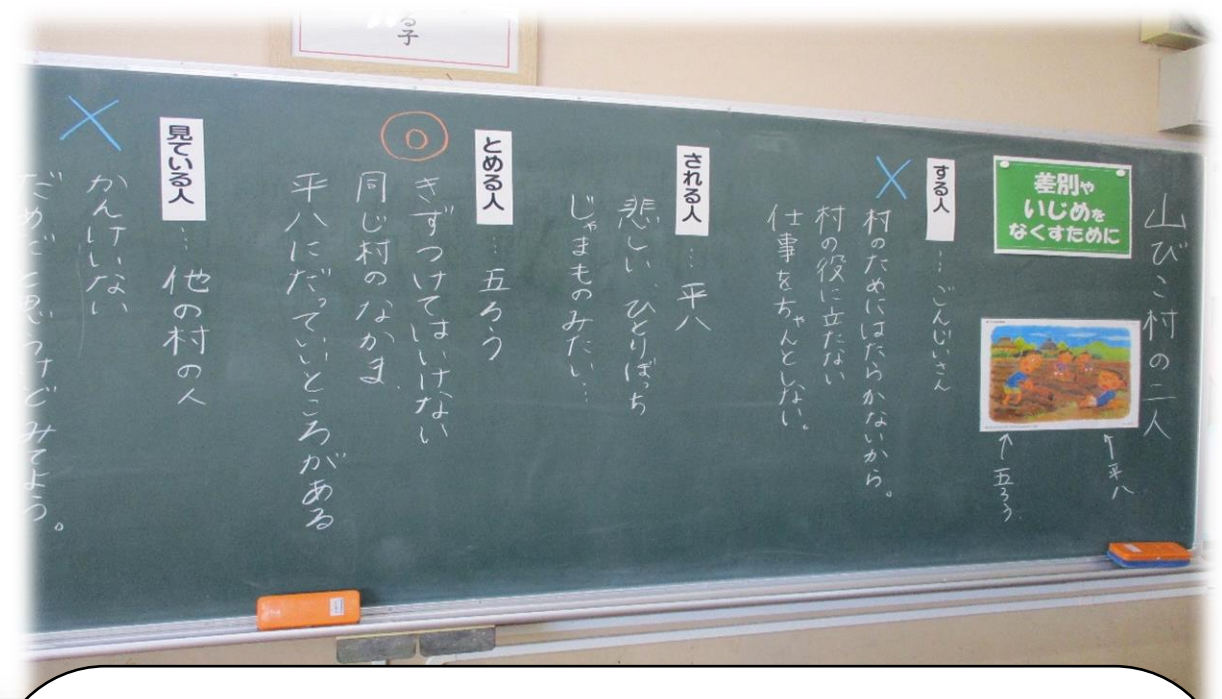


4年 「山びこ村の二人」

今回は、「山びこ村と二人」というお話から、差別を許さない心や、公正な態度について考えました。

ねらい 差別をなくすために必要な心について考えよう。

あらすじ 働き者の五郎と怠けがちの平八。しかし、平八一人のけ者にしたくない五郎が、平八をうたげに呼んだことで、平八は人が変わったように働きだした。



子どもたちの感想

- 自分はいじめや差別をしないようにするために相手の気持ちを考えて行動や言葉遣いができるように気を付けていきたいです。
- 自分がもし平八ならどんな気持ちかを考えて行動できるようにします。
- 自分は相手の気持ちを考えて行動して、相手を傷つけないようにしたい。

